中学生の被爆地研修

3ページから

んなであったか進んで聞いてみてください。もっと身近に感じられるのでは。世代をこえて、平和を語る日を年に一回でもつくりたいものですね。

司会　市長さんは、昭和二十年ごろ、どんな思い出がありますか。

市長　そのころ、私は、まだ小学校の三年生でした。靴をはいた子どもはなく、半分は裸足で、残りはわらぞうりでした。このころ、米を食べた記憶がありません。サツマイモが食べれればいい方です。戦後十年間は、ほんとうに食べものが不足していました。

皮膚がただれおち、さまよう人たち（原爆資料館内の被爆のまちコーナー）

戦争はなぜ起きるのかもっと関心を

司会　戦争についての見方や考え方も世代でかなり違うのではありませんか。湾岸戦争では、テレビでコンピューターゲームのように最新兵器を用いた戦争を毎日報じていましたが。

笹木　戦争に対しては、単に恐いとか、いけないものだとか思っていますし、実際、戦争は自分たちとは関係ないなどと考えている人が大多数じゃないかな。

鈴木　戦争体験のない私たちには、戦争というものがよくわかりませんでしたが、広島の悲劇を見て、戦争は死そのもので、原爆は人類の滅亡につながるものだとはっきりわかりました。

きれいなまちに生まれ変わった広島市街地（広島城天守閣から眺む）

司会　研修からもどってきて、広島で見たこと感じたことを誰かにお話ししましたか。

遠藤　広島では戦争の傷あとを見るたびに胸に詰まることばかりで、口ではうまく伝えられませんが、自分なりにこの体験を作文にまとめました。

笹木　僕の場合も研修で感じたことをまとめて、全校生徒の前で発表しました。友達に聞かれるたびに「原爆はひどい」と話をしています。

皆川　原爆で亡くなった人たちの話をしおりで読みながら、おかあさんが泣いていました。私も胸が熱くなって、二度とこんな悲しいことが起きてはならないと思いました。

司会　研修を終えて、戦争についての見方や考え方も変わったのでは。

鈴木　どんな理由があっても戦争は絶対いけないもの。平和を守るため、みんなで力を合わせなければならないと思いました。

遠藤　広島で起きた悲劇をみんな一度は見て感じてほしいです。日本中の人、世界中の人がこの悲惨さを知って、人間の命の尊さを考えるべきです。

笹木　作文の中でも書いたのですが、平和といってもぼやっとしていて、ですから戦争はなぜ起きるかという見方で僕たちももっと関心を持ったらよいと思います。

皆川　世界中のあちこちで戦争みたいなことが起きています。でも、正直言って今の自分たちの力ではどうにもならない気がします。でも、私たちが大きくなって私たちの時代では、この人類のあやまちを繰り返してはならないと思います。

戦争の恐ろしさを語り伝えよう

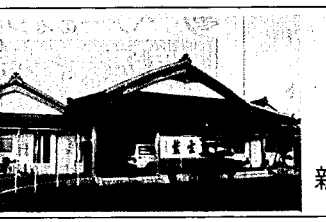
市長　若い人たちに課せられた絶対平和への努力はたゆみのないもので、民族問題や環境問題など地上で起きているいろいろな問題を考えると、その責任も重大です。しかし、今回の成果をどう生かすか急ぐことはありません。まずは、核戦争のむごたらしさと恐ろしさ、むなしさを、戦争を知らない人たちに一人でも多く教えてあげてください。

土田　実際に被爆地の土を踏んで見てきたことは、これから大人になるにつれて大きな重みを持っていくと思います。平和は、一人一人の意識と核兵器や戦争に関する正確な知識、判断力からつくられるものです。この研修が皆さんの一生にわたって平和を守るための大きな力になることを信じています。

司会　平和公園には、この世に核兵器がなくなるまで永遠に燃え続ける火があります。人類の真の平和を求める心の象徴ですが、この怒りの火がいつか消えることを願い、座談会を終わります。

お買物、ご用命は市内で

・自宅葬儀
・会館葬儀
・貸花環



全館冷暖房完備
(株)越後葬祭直営
葬祭会館　紫雲殿
新津市東町1丁目　☎(24)8330

「兵隊さん、おなかすいていませんか」

関口善彦（長野県飯田市）

さきころ、長野県飯田市にお住まいの関口さんという人から一通のお手紙をいただきました。終戦直後、復員の途上遭遇した新津市での忘れ得ぬ思い出を語りながら、そのときの感謝の気持ちを綴ってこられましたのでご紹介します。

昭和二十年、終戦を迎えた八月の末、私はそれまで、かの所謂学徒出陣による海軍航空隊のパイロットとして、特攻訓練に明け暮れていた東北の基地に別れを告げ、一路郷里信州への道を辿っていた。同期生の何人かが、数次にわたる沖縄の敵機動部隊攻撃の露と消え、自らも次の出撃の用意を整えていた矢先、突如本土防衛に備えての特攻中止、続いて終戦と、思いがけない情勢の変化に、はからずも生命をとりとめた私であった。復員に当たっても、途中厚木基地にマッカーサーがやって来るから、東京を避けて行くようにと言われていたので、福島県の郡山からわざわざ磐越西線に乗り換え、新潟県の新津をまわって帰ることにした。車内は満員。でも暫くして車窓から眺める阿賀野川の景観は、郷土の天竜を彷彿とさせて美しく、杜甫の「国破れて山河在り」の句がしみじみと思い起こされた。

新津に着いた時、日は既に暮れ、何時来るとも分からぬ次の直江津に向かう列車を待つ間、さすがに疲れて駅前のベンチに腰をおろしていると、それまで付近で遊んでいた小学生が男女合わせて四、五人、人懐かしげに寄ってきて、

「兵隊さん、おなかがすいていませんか。あちらで婦人会の人たちが御飯を炊いていますから行って食べて下さい」

といった。思いがけない言葉に私は一瞬びっくりしたが、もとよりここに至ってあつかましく食を乞うことなどできなかった。

「ありがとう。でもおなかはすいていませんから…」

と断ったが、またひとしきりするとやって来て、

「御飯の用意ができていますから、食べに来て下さい。すぐ近くです」

といった。するとそれに続けて、一緒にいた別のやや年上の女の子が、

「この子も兵隊さんが大好きなんですって…。ねえ」

と私の緊張をほぐすかのように、自分の背にした妹らしい幼児をかえりみながらいった。私はでもなおも固辞しながら、途中での食事用にと、隊から支給を受けて来た乾パンを少しずつ分けてやると、皆珍しそうに喜んでもらって行った。見知らぬ敗残の仕官に、やさしくいたわりの言葉をかけてくれる新津の子供たちの心の温かさが、ひしひしと身にせまって来るのを覚え、感謝の気持ちで一杯だった。

当時のこの子供たちも、今ではもう五十歳をこえているはずだから、皆それぞれに立派な家庭を持ち、また要職について活躍しておられるに違いない。その頃、他所では同胞から罵られ、石まで投げつけられた者もあったと聞く中で、私はこうしたうるわしい子供たちを育んだ新津の町、新津の人々に、はかり知れぬ床しさが感じられるのであった。

今から四十数年前の、終戦直後の混乱の時期における、忘れ得ぬ心あたたまる思い出の一こまである。

下水道展を見に行こう

9月7日(土)・8日(日)
午前10時～午後4時
長崎屋新津店2階催事場

9月10日の「全国下水道促進デー」にちなんで、「下水道展」が次のように開かれます。今回は、下水道促進のPRだけでなく、各家庭で環境改善を見直すきっかけになればと「下水道の過去・未来」をテーマに行われます。

今度の週末は、ぜひ下水道展にお出かけください。

□内容
- 新津市の下水道の過去・未来のパネルの展示
- 水質の測定検査
- 排水設備工事や工事費用の融資あっせんの相談コーナー
- 風船や綿あめの無料サービスコーナー

※また、アンケートに答えると福引きにより記念品をさしあげます。

お買物、ご用命は市内で

老舗の味をお気軽に！
各種宴会・御会合・仕出し料理承ります
新味割烹　春雨
本町1（駅前）☎22-1600(代)

健康家族
保険調剤・ツムラ漢方薬
生薬配合・ツムラ化粧品・ベビー介護用品
薬なら新津薬局
新津駅前本店 (24)6311
おぎかわ駅前店 (24)6322